

# 定家のもたらしたもの

なま 雨の後にすばの露のいふたえし  
こよまろしきちのぼりうは為田

逢不 雨の後にすばの露のいふたえし  
おまろしきちのぼりうは為田

鶏旦試書 点ててゐる宿るうらゝ初めりや  
しゝおけけのゝ地よきかなる言書ぬ

## —文字と仮名遣い—

平成二十七年

三月十四日 [土]

午後二時～午後六時(終了予定)

日本女子大学 目白キャンパス

成瀬記念講堂

〔開場午後一時三〇分／入場無料／事前申し込み不要〕

### 【講師】

◆定家仮名遣いの継承

坂本清恵 [日本女子大学教授]

◆擬定家本の定家仮名づかい

遠藤邦基 [奈良女子大学名誉教授]

◆定家様と中世の古筆

別府節子 [出光美術館学芸員]

◆小堀遠州と定家様の書

小堀宗実 [遠州茶道宗家十三世家元]

問い合わせ先 ●日本女子大学文学部日本文学科

〒112-8681 文京区目白台2-8-1

TEL/FAX 03-15981-3522

〔写真〕右から冷泉為綱筆、冷泉為頼筆、小堀宗慶筆

# 定家のもたらしたもの

## —文字と仮名遣い—

「定家のもたらしたもの」の第二回として、定家の特有な「文字」に着目、日本語学や古筆学の研究者、また今日実際に定家様の文字を揮毫する遠州流茶道の家元を招聘して、定家の魅力とその影響の大きさを探ることにする。

定家は数多くの古典籍を書写、校訂した。定家が写したことにより現在読むことができる古典作品(例えば『更級日記』)も存する。定家はその日記『明月記』において、自身の文字を「其字如鬼(その字、鬼のごとし)」と記している。書風は平安時代の流麗な仮名字体とは異なり、連綿に乏しく、肥瘦のコントラストが強い筆致である。これが定家の子孫(冷泉家など)によって模倣され、「定家様」と称される書風が生じた。この影響はさまざま分野に及び、謡本や浄瑠璃本にもこの書様で筆写される伝本がある。また武野紹鷗が侘び茶の精神を定家の和歌に見出したことを淵源とし、茶人たちは「定家様」を愛翫、その筆法を實踐した。小堀遠州や松平不昧はその代表だが、遠州流茶道では現在でも家元がその書様を伝えている。

書写にあたり、定家は誤読や誤写を防ぐため合理的な仮名文字の配置を工夫し、『下官集』にリスト化される仮名表記法は「定家仮名遣」として広く行われた。声調を反映させた仮名遣いは、時代とともに批判もされるが、「定家仮名遣」は近世にいたるまで継承されていく。また、定家が冒頭部分を写し、残りを側近の者に書写させた定家監督本があり、また擬定家筆本という写本群も出現する。その冒頭部分の「定家様」は書体のみの「様」であるのか、仮名遣いにも及んでいるのか。

この講演会では、定家が日本文化にもたらしたものを、そして現在まで受け継がれたものを、「文字」とその用法に焦点を当てながら問うことを目指す。擬定家本の仮名遣い、書写と文字・仮名遣いの関係などをテーマに据えながら、学術的アプローチを試みたい。

平成二十七年三月十四日「土」

午後二時〜午後六時(終了予定)「開場午後一時三〇分」

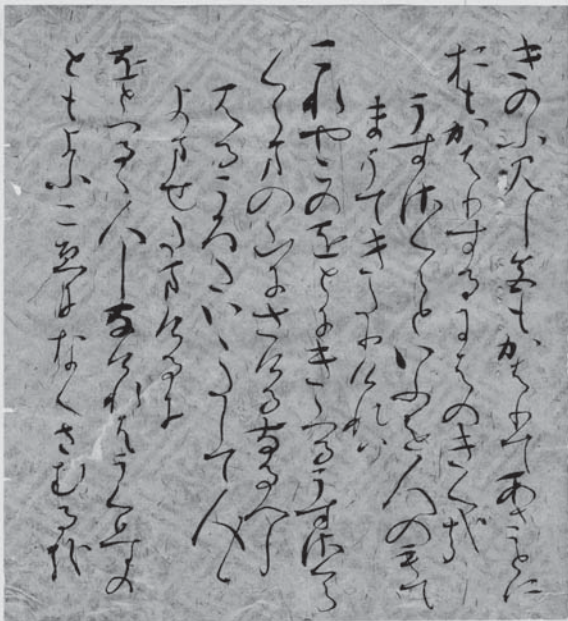
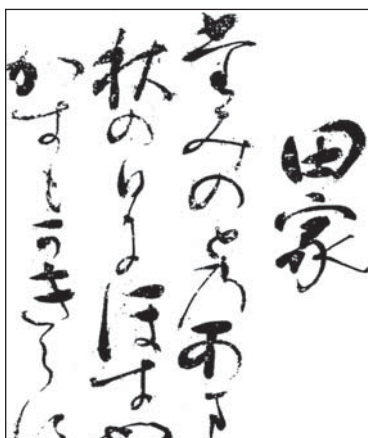
日本女子大学 目白キャンパス 成瀬記念講堂

「問い合わせ先」

日本女子大学文学部日本文学科  
〒112-8681 文京区目白台2-8-1 TEL/FAX 03-3943-3131

入場無料

事前申し込み不要



[左] 四条切 [右上] 北向雲竹画「定家と俊成」 [右下] 定家筆「田家」(部分)

## 日本女子大学 目白キャンパス 成瀬記念講堂

日本女子大学 目白キャンパス  
東京都文京区目白台2-8-1 03-3943-3131 (代表)

アクセス

- JR山手線 目白駅から徒歩約15分/バス約5分
- 都営バス(学05)「日本女子大学行き」(直行)「目白駅前」(2)乗車 「日本女子大前」(4)下車
- 都営バス(白61)「新宿駅西口行き、または「椿山荘」行「目白駅前」(1・3)乗車 「日本女子大前」(5)下車
- 東京メトロ副都心線「雑司が谷」駅(3番出口) 徒歩約8分
- 東京メトロ有楽町線「護国寺」駅(4番出口) 徒歩約10分

